

（仮称）川口市子ども条例 関係者ヒアリング結果について

【調査概要】

1 調査目的

子どもの居場所となっている児童センターの職員から、現在の子どもの様子や、センターの活動状況などについて考えを聞くもの。

2 ヒアリング対象

川口市南平児童センター（指定管理者：川口市社会福祉事業団）

※川口市南平福祉会館の2階

本センターでは、地域子育て支援拠点事業を実施しているほか、センター内に子ども家庭相談室が設置されている。また、会館の1階には南平保健ステーション（子育て世代包括支援センター）などが設置されている。

3 調査日

令和4年9月21日

4 調査方法

事務局（子ども総務課）職員がセンターを訪問し、センターの職員にヒアリングを実施

※当初、（仮称）子ども条例検討委員会【庁内】と児童福祉専門分科会（仮称）子ども条例検討部会【外部委員】の合同会議にてヒアリングを行う予定としていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、ヒアリングの時期と方法を変更した。

【聞き取り結果】

- ・ 10年前は下駄箱に靴が入りきらないくらい子どもが来ていたが、(コロナ前の) 5～6年前から児童センターに来る小学生は減少傾向である。核家族や共働きの家庭が増えて学童に行く子どもが増え、学童に行かない子どもは塾に行っているのではないか。
- ・ 現在は、コロナの影響で小学生の来館が少なくなっている。もし来館したとしても、コロナの影響で密になるような活動はできず、(コロナ前にやっていた) 卓球や人生ゲームもできない。正面に仕切り板を置いてオセロを行うことはできるようになった。そもそも、この施設にある遊びが今の子どもに響くかどうかと思っている。
- ・ 日中は未就学児とその親の来館が多い。保健ステーションから紹介されて来館することもある。核家族化が進み、相談相手を求めて来館する親もいる。このセンターには元々保育士をしていた職員が多くいるので、親からの相談にも対応できている。
- ・ 気になる子どもについては、子ども家庭相談室や保健ステーションの職員、学校などと連携して対応している。学校には行けていないが児童センターには来ている子どももいる。
- ・ 中高生については、小学生時代から児童センターに通っていた子どもが相談に来ることがある。
- ・ 夏休みの児童センターのお祭りでは、子どもに実行委員をやってもらい、楽しそうにしていた。今年の7月には、新日本フィルに演奏に来てもらった。地域との関わりという意味では、町会と連携して書き初めの募集を行った。